

野生生物保全辞典
第9章—第11章 プレレジュメ

3週目 勝亦・関口・玉城・千葉

今回、私達の班では文献の第10章で取り上げられている「環境倫理(学)」をベースに、第11章との検証や対比を軸とした発表を行います。

第9章の「野生生物保全と里山」については、このプレレジュメで中心に取り上げ、本発表ではここでの用語や概念を用いる予定なので、各自予習をしておいてください。そして、発表当日(7日)のゼミには、各自このプレレジュメを印刷して持参してきてください。

<第9章 野生生物保全と里山>

里山: 人々の生活が大規模工業化する以前の農山村内の山仕事をする場所。

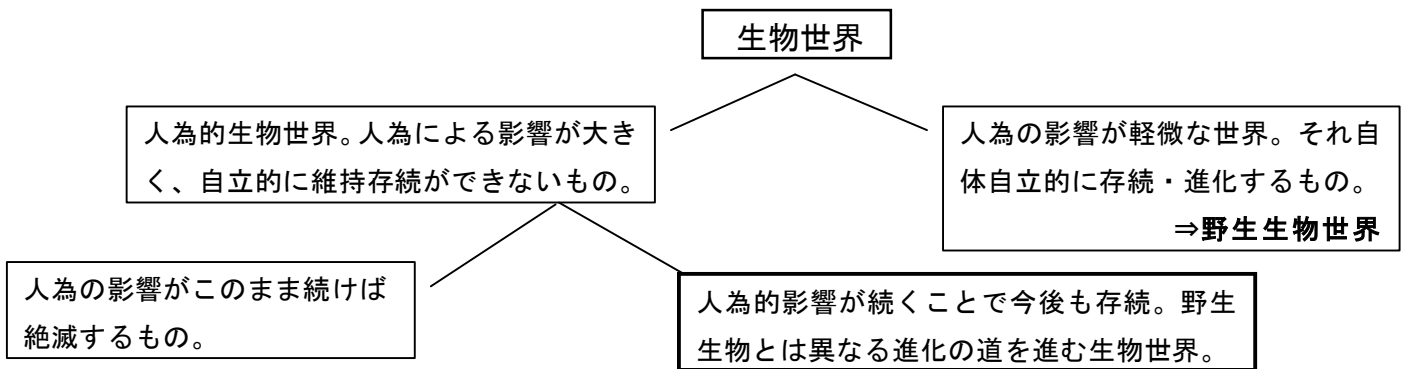
屋敷+耕地(+附属域、草原、森林などの支援域)

里山…自然性と社会性相互に密接に関わっている

Ex. イネ 人為的なはたらきかけによりイネを優占種とする湿生群落は存続できる

【里山と野生生物保全】

人為による影響下での生物世界とその保全のあり方を考えたとき、生物世界は以下のよう
に二分される。



農山村の生物世界…農林作業が及ばなくなれば植生の遷移が進行して消滅するため、太枠内に分類される。

それをふまえると、村落景観が生物多様性の保全の面から重視されている理由は

- ① 人間による自然の改変で多くの生物種が絶滅したが、新たにできた農耕的自然が、絶滅危機にある生物種の代償環境となり維持存続できたこと。
- ② 人間による自然改変が生物世界の変化の時期と重なり、自然的要因により生息環境を失い絶滅の危機にあった生物種にとって、造形された農山村の自然が代替環境になったこ

と。

- ③ 農業的自然が他の地域に生息する生物種の代替環境となり、分布拡大に役立ったこと。
- ④ 人間と自然の物質代謝が間断なく展開されることで、それらが地域によって異なり、全体として多様であること。以上4点である。

日本における野生生物世界の保全から、農山村の自然の保全についてふれるならば、

- ① 野生生物が自立的に存続できるよう人為的影響を軽微にした地域を奥山に準備すること
 - ② 都市・農村域の人々が経済活動をする地域と野生生物世界のための緩衝域を用意すること
- ⇒双方の影響が軽微に留めることが緩衝域の役割。野生生物世界の保全には不可欠。

これら二点が重要になってくる。

<宿題>

1: 「動物・自然は没価値的であり、倫理的主体ではなく、倫理的対象とはなりえない (P124 注3 参照)」という考えに対して、自分の見解を示してください。その際に、「かわいそう」などといった感情論は抜きにして、一生物として考えてきてください。

2: エコツーリズムの是非についてのそれぞれの意見を述べてください。

以上の2点ついてを10月5日(月)23:59までに、truth.clover.shine@hotmail.co.jp に送信してください。書式、形式は問いません。

以上